

保存・継承・活用・発信



琵琶湖文化館は、平成20年から休館しているが、令和9年に**新文化館として生まれ変わろうとしている。**

近江の文化財を保管、展示するミュージアムとしてだけでなく、地域の文化財を守り、活用するためのサポートセンター、文化観光拠点となるビジターセン

ターとしての機能を加えた「近江の文化財を保存・継承・活用・発信する中核拠点」としての施設像を目指す。

本記事では**新文化館の特色**と、開館に向けて邁進する**学芸員の業務**に焦点を当てて取材した。



教えて！学芸員さん

Q:仕事の魅力・やりがいとは？

A:県内の貴重な文化財の多くに携われます。

文化財にかかわれる仕事は誰にでもできるものではありません。市町で見つけた文化財の運搬時などに専門的知識でお力添えをしたり、一般の方からの素朴な疑問にお答えできたりした時など、人々に喜んでいただけることがやりがいです。

また、新しい博物館建設に携われるのも貴重な経験で、魅力だと感じています。



寺前 公基 学芸員
推し収蔵品:書跡「行書李白詩屏風」(副島種臣,1892)

Q:新文化館設立にあたっての業務はどんなもの？

A:新文化館の建設、企画、運営について協議検討をしています。

今後、文化財の寄託や寄贈の依頼が増えていくと見込まれる中で、新文化館としてどのように対応していくかが喫緊の課題となっています。

他にも、学芸員それぞれの得意分野を生かして市町の文化財保護、調査に協力しています。



田澤 梓 主任学芸員
推し収蔵品:舍利供養(杉本哲郎,1949)

Q:新文化館で新たに生まれるものは？

A:1階に「インフォメーションラーニングゾーン」などを用意しています。

大津港の近くということもあるので、「うみのこ」から来る小学生達や観光客に向けたフリーゾーンの情報提供エリアを設置し、実際に現地に行ってもらえるような体験を提供しようと考えています。



琵琶湖文化館
マスコットキャラクター
あきつ君

新文化館のここがスゴイ

緊急保管庫

災害時など損壊の危機に晒された県内の文化財を緊急的に受け入れるシェルター。

基礎免震構造

病院にも採用されている、免震構造。展示品だけでなく来館者も守れる全国でも稀な設計。

超大型収蔵庫

今後30年を見据えたその面積は1,500㎡。なんと旧文化館の3倍以上となる大きさ。